

令和5年度エルムズ大学長期留学最終報告書

看護学部看護学科4回生 浅井美凜

私は、2023年8月末から2024年5月までマサチューセッツ州にあるエルムズ大学に留学し、多くの人々に出会い、様々な経験を積み、多くのことを学びました。ここでは、アメリカ留学を決意した理由と約9か月の留学を通じて学んだことについて記載します。

まず、アメリカ留学をしようと考えた理由についてです。私は、多国籍国家であるアメリカでグローバルや多様性について学びたいと思い留学を決意しました。近年、日本でも国際化が進み、授業の中でも「グローバル」や「多様性」という言葉を多く耳にするようになりました。その中で、これらの言葉の意味を深く理解し、日本以外の国からの患者さんに適切な看護を提供できる看護師になりたいと考えるようになりました。エルムズ大学は日本人がいない環境であり、英語力を向上させるだけでなく、グローバルに関する知識を深めることが出来る、まさに私にとって理想的な環境でした。実際に留学を通し、グローバルや多様性について自分なりに理解することができ、英語力も向上したと感じています。

次に授業を通しての学びについてです。私は秋学期と春学期に、英語を母国語としない学生を対象としたESL、新入生全員が受講するFYS、日本人の考え方や概念を西洋の文化と比較しながら学ぶEast/West、様々な作品制作や鑑賞を行うArt、DEIという考えに基づいて様々な事例についてディスカッションを行うDEI in the Workplace、写真撮影の技術について学ぶDigital Photography、様々な音楽に触れるMusicを受講しました。それに加え、看護技術を学ぶHealth AssessmentやFundamentals of Nursingという看護の授業に聴講生として参加しました。

印象に残っている授業は、ビジネスの授業と看護の授業です。ビジネスの授業では、DEIという概念に基づいてグループディスカッションやゲストスピーカーによる講義が行われました。DEIとは、あらゆる人が公平に扱われ、尊重され、組織や社会において包括される状態を目指すことや、そのための取り組むことを意味します。普段、一緒に勉強する機会のないビジネス専攻の学生とのディスカッションでは、自分にはない考え方を知ることができました。DEIについてビジネスの観点からと自分の専門分野である看護の観点の二つの視点から考えることで、今まで知らなかった考え方や物事の捉え方を身につけることができました。看護の授業では、日本でも英語で看護を実践できるようにするという目標を掲げ、どのように声かけを行うか、日本とアメリカの看護の違いは何かを考えながら取り組みました。日本とアメリカの看護には大きな違いはなく、基盤となる考え方や看護技術の大部分は日本と同じであると感じま

した。しかし、信仰宗教に対する理解や対応、英語を母国語としない患者さんへの関わり方については、アメリカの方が充実した学習や実践が行われていたと考えます。問診の際には、信仰している宗教に関する質問が日本よりも詳しく行われていました。入院時でも、患者さんが信仰している宗教を続けられるように工夫がされていることが分かりました。また、通訳を介した問診や看護援助の実践における工夫や注意点についても学びました。日本でも、外国からの患者さんが多く病院を受診します。日本でも通訳を介した看護実践が行われる機会が増えると考えているため、意思疎通が誤解を生じることなく行えるように、通訳を介したコミュニケーションや英語を用いたコミュニケーションなどで学びを生かしていきたいと考えています。

そして、授業外の活動を通じての学びについてです。特に印象に残っているのは、First-Year Encounter です。これは、1年生が新学期が始まる少し前から学校で暮らし、上級生と関わることで大学について深く知り、ボランティア活動を行うことで「deer neighbor」という概念を理解するものです。ボランティア活動では、移民者を支援する団体を訪問しました。アメリカで自立して生活できるように英語を教えたり、必要な生活物資を提供したりしている団体でした。活動内容は、寄付された服を取りやすいようにサイズや性別ごとに分類したり、配布物をそれぞれの家族構成に適したものにまとめたりするものでした。指示の内容を理解すれば、作業自体は難しくありませんでした。しかし、アメリカ到着直後の活動であったため、英語でのコミュニケーションや指示にとっても苦戦しました。文化の違いや言語の壁などに戸惑いがありましたが、友達が文化の違いがあることを面白いと話してくれ、私自身もその違いを楽しめるようになりました。この活動を通じて、異文化を受け入れ楽しめるようになり、「deep neighbor」の理念を理解することができました。海外からの患者さんの文化を理解し、看護を行うという私の目標とする看護師像に少し近づけた経験となりました。

留学を通して、成長し多くの学びを得ることができました。エルムズ大学では、日本以外の多様な文化に触れることができ、英語力の向上だけでなく、グローバルに関する知識を深めることができました。授業を通して、自分自身にあった固定概念に気づくことができ、新たな視点や考え方を身につけることができました。授業外での活動では、異文化を受け入れることや「deep neighbor」という理念を理解する経験を積むことができ、海外からの患者さんの文化を理解し、適切な看護を提供する看護師という理想像に一步近づくことができました。

最後に、看護学部として初めての長期留学を実現できるよう支えてくださった高知県立大学の先生方、エルムズでの生活を充実させるために日々助けてくれたエルムズの先生方、生活面でも精神面でもサポートしてくれた家族や友達に感謝しています。

これからも、留学での経験や学びを活かし、成長し続けていきたいと思います。



左) FYS で行われたイノベーションチャレンジの後にクラスメイトと 右) FYE に参加した全員で



左) 看護のクラスメイトと参加したボランティア活動で 右) ダンスチームに所属し、参加したダンスパフォーマンス



左) 休日におでかけした際に

右) エルムズ大学の先生方と県立大学の学生、フレンドシップパートナー